

まで識別できるかどうかを調べる。

「結果と考察」

- ①平成 12 年 11 月 27 日に、オレンジ色に着色した 50 mm 種苗 (34 ~ 105 mm) 530 個を川平湾の礁斜面に放流した。
- ②平成 12 年 6 月 27 日に、アワビ用配合飼料で 2 年余り飼育した平均殻高 28 mm (20 ~ 43 mm) の稚貝 154 個を、石垣島白保沖に放流した。
放流後の調査は 3 月以降に実施する予定である。

「残された問題点」

- ・発見率の向上

3). 漁獲物調査

「材料と方法」

石垣島に水揚げされるヤコウガイについて、殻高、殻幅及び体重を測定するとともに標識の有無と漁場を調べた。調査対象は八重山漁協、貝類集荷業者、鮮魚店及び漁業者である。また、水揚げの多い漁業者 2 名に操業日誌の記入を依頼した。

「結果と考察」

八重山地域の主な漁場を図 1 に示した。

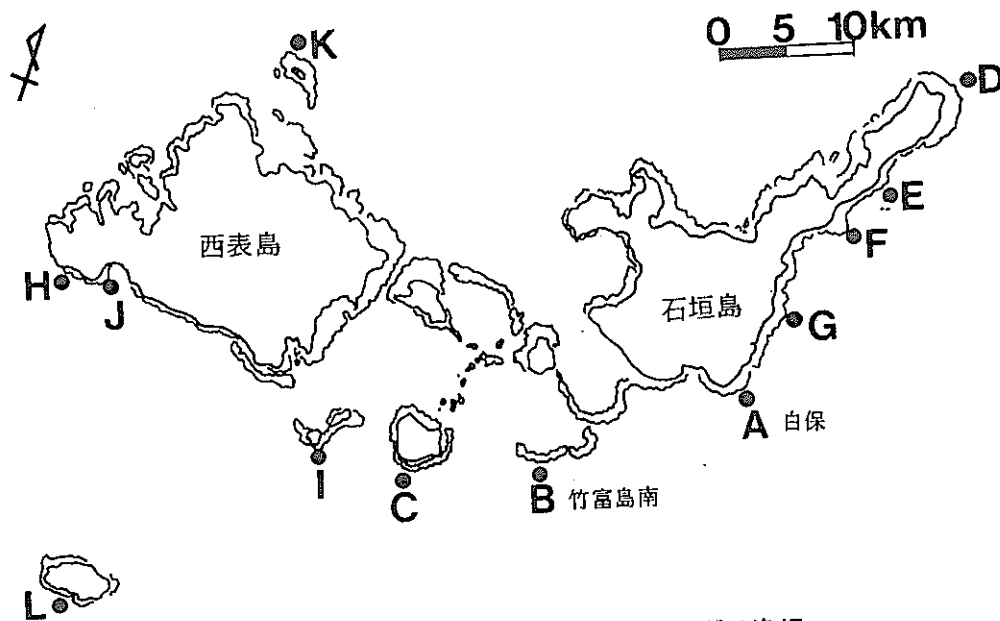


図 1. 八重山海域におけるヤコウガイ漁場

A の白保沖と B の竹富島南が放流海域である。12 月までに漁獲された 476 個を調査したが、標識個体は確認できなかった。八重山地域における平成 12 年のヤコウガイの漁獲量は 1,301 kg、個数にして 789 個と推定され、調査した個体数は 60% にあたる。

ヤコウガイ漁獲量の推移を図2に示した。県計ではやや減少しているが、八重山では1997年以降増加傾向がみられる。

操業日誌を依頼した2名の漁獲量の合計は、735 kg、394個であった。そのうちA氏の漁場別の漁獲数の推移を図3及び4に示した。漁獲数は年々増加しているが、放流海域であるA漁場とB漁場ではっきりした増加傾向はみられない。

図2. ヤコウガイ漁獲量の推移

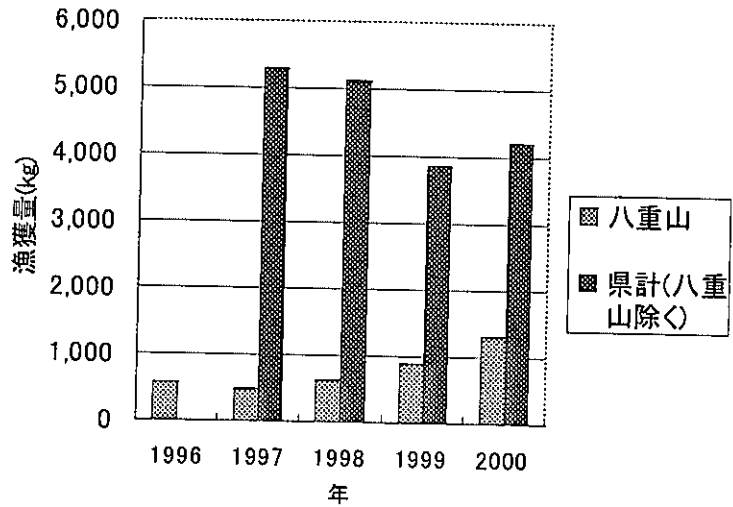


図3. 漁場別漁獲数 (A氏)

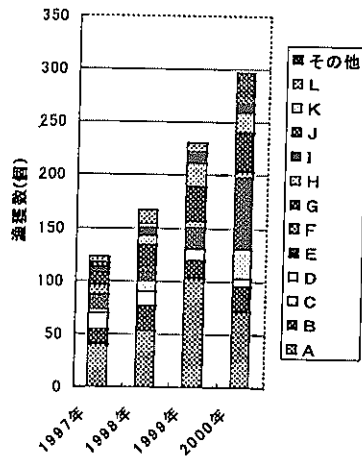


図4. 漁場別漁獲数 (A氏)

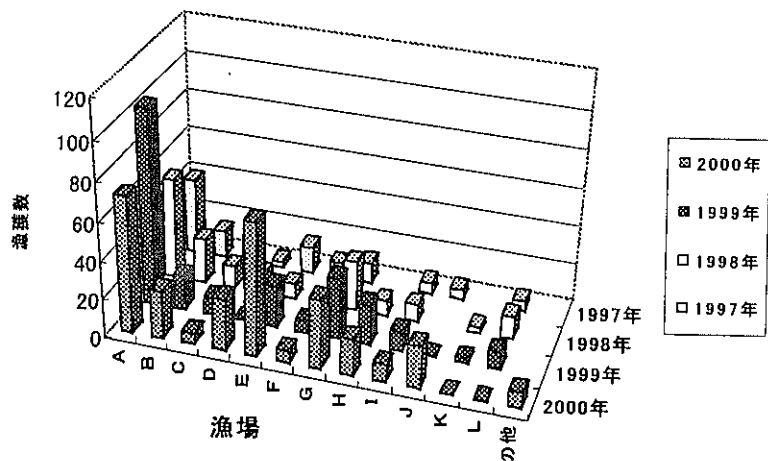
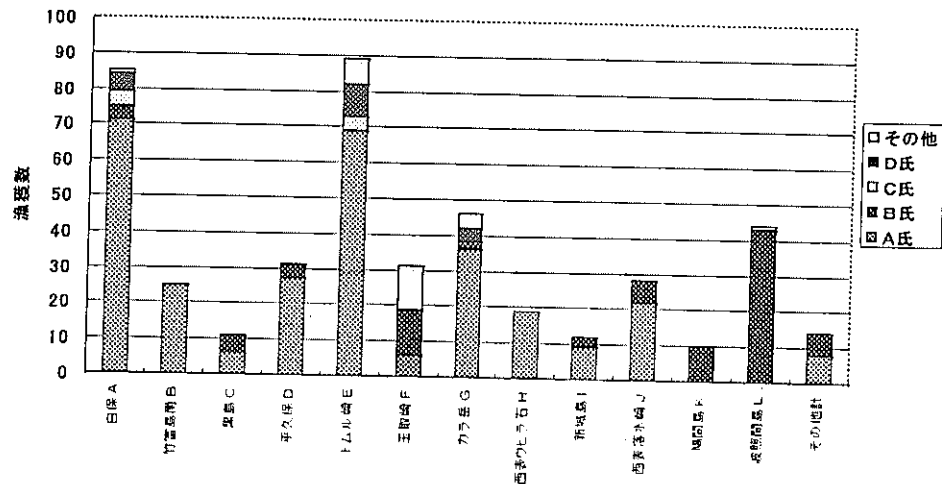


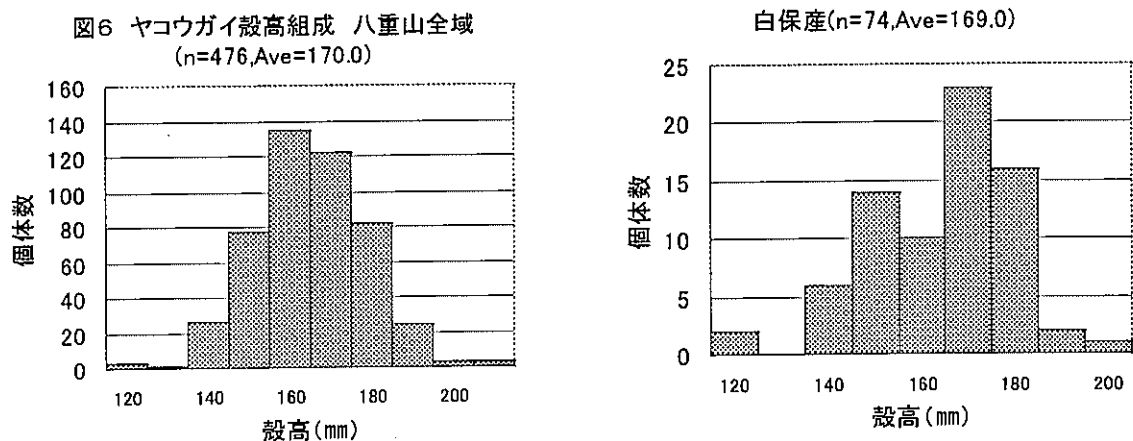
図5には漁場がわかっている445個の貝の漁場別の漁獲数を示した。この大部分(394個)は操業日誌を依頼した2名のものであり、その他

図5. 2000年漁場別漁獲数



の漁業者の漁場はほとんど把握できなかつた。漁獲の多いのは白保沖(A)とトムル崎(E)であるが、漁業者により漁場が異なるようなので、漁獲量と資源量は一致していないかもしれない。

調査したヤコウガイの殻高組成を全数と白保産に分けて図6に示した。放流場所である白保産には2つのピークがみられた。



「残された問題点」

- ・ 調査精度の向上

4). 参考文献

- 1) 沖縄県水産試験場八重山支場(1999)：平成 10 年度特定海域新魚種定着促進技術開発事業報告書
- 2) 沖縄県水産試験場八重山支場(2000)：平成 11 年度特定海域新魚種定着促進技術開発事業報告書